

単位数	教科担当者	使用教科書・補助教材・その他
2	小山 淳 木村 美保子	文学国語（筑摩書房） 入試頻出漢字TOP2500（いっずな書店） 新現代文単語（いっずな書店） 常用国語便覧（浜島書店） ちくま評論選（筑摩書房） ちくま小説選（筑摩書房）
○必修 学校必修 必修選択 自由選択		

◆学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

◆主な学習内容・方法

- (1) 語句の確認 構成分析 主題・大意の要約 設問の解法
- (2) 対立概念の把握 文章表現技法の特色の抽出
- (3) 文学作品の背景の主体的な研究

◆到達目標と観点別評価の評価規準

〔標準〕 ・漢字の正しい読み書き及び、語句の意味が正確に把握できる。

- ・文章を、文脈から判断して正しく理解することができる。
- ・文章の構成をとらえ、文章の主題・大意を正確に把握することができる。
- ・登場人物の心情を正しく読み取ることができる。

〔応用〕 ・色々なジャンルの作品の背後にある事象や歴史、各分野との関連を理解できる。

○知識・技能

生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。

○思考・判断・表現

「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。

○主体的に学習に取り組む態度

言葉がもつ価値への認識を深めるために、読書を通じて自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。

◆年間予定授業時間

予定時数	70時間	1学期（26時間）	2学期（28時間）	3学期（16時間）
------	------	-----------	-----------	-----------

◆学習のしかた（予習・復習・宿題・課題・その他）

<ul style="list-style-type: none"> ・本文を事前に通読し、分からない語句・筆者について調べておく。 ・文章の構成に留意しながら、文章の展開と主張を的確に整理する。 ・授業で課される課題に主体的に取り組む。 ・副読本を自学自習で読み進め、発問の解答練習を繰り返す。
--

◆授業計画

学期	月	単元・教材等	単元ごとの時間数	学習の内容	学習到達目標
1 学期	4	「情報の彫刻」	4	・電子メディアと紙媒体それぞれの特色と役割について考える。	・筆者のものの見方、考え方感じ方を読み取り、普遍性、創造性について思索を深めることができる。
	5	「バイリンガリズムの政治学」	4	・日常で「境界」の存在を感じる場面を挙げ、その境界を動かしたり、崩したりすることによってどのようなことが見えてくるかを考える。	・論理展開や趣旨を的確にとらえることができる。
	6	「山月記」	8	・場面を区切って読み、「変身」をめぐる主人公の考えや心情の変化を整理する。	・文学的な文章について、人物、情景、心情などを的確に捉え、表現を味わうことができる。
		「メディアと倫理」	4	・本文を通して映像メディアと接する際の留意点を理解し、文学作品特有の表現力について考える。	・筆者の考え方を論理にしたがって読み取り、思索を深めることができる。
	7	「ラムネ氏のこと」ほか	6	・本文中のそれぞれのたとえ話に共通点を見つけ、隠れたメッセージを読み取る。	・比喩表現を理解し、作者の意図を読み取ることができる。
2 学期	8	「記号論と生のリアリティ」	4	・本文を読み解き、「記号学」についての筆者の考え方を理解する。	・筆者の考え方を論理にしたがって読み取り、「記号論」について理解することができる。
	9	「こころ」	12	・語りの構造、人物設定、筋立て、伏線等から作品の構成を捉え、小説を読む面白さを味わう。	・時代背景や人物の心情、情景、などを的確に捉え、表現を味わうことができる。
	10	「死者の声を運ぶ小舟」	4	・「文学の力」について、筆者の主張を読み取る。	・主張を捉え、人間・社会・自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。
	11	「未来をつくる言葉」	4	・コミュニケーションと翻訳についての筆者の考えを理解する。	・コミュニケーションと翻訳のつながりを理解することができる。
	12	「小景異情・サーカス・永訣の朝」	4	・それぞれの詩を場面に区切り、表現の特徴を捉えながら情景、心理変化を読み解く。	・韻文のもつリズムや音感を捉え、表現のつながりを感じ取ることができる。
3 学期	1	「化物の進化」	4	・科学者には「化物教育」が必要だという筆者の主張は何を意味するか、読み解く。	・理路整然とした随筆から筆者の主張を読み取り、理解することができる。
	2	「文学の仕事」	6	・筆者が説く「文学」の役割を踏まえ、文学・創作について柔軟な視点で捉え直す。	・筆者の考え方を論理にしたがって読み取り、理解することができる。
	3	「捨てない女」ほか	6	・現実と非現実とをつなぐ小説の深みを理解する。	・巧みな比喩表現を読み解き内容を理解することができる。